

Aイマस्कはいかがですか？

言葉にする勇氣

4年 R・Kさん

自分の意見や気持ちをはっきりと言うのがぼくは少し苦手だ。心の中の思いをうまく言語化できなかったり、自分の言葉で相手がいやな思いをしないか不安になったりして言葉が出てこないことがある。みんながいやがった委員を、ぼくもあまりやりたくなかったけれど断れずに引き受けたことがあり、本に出てくる夏南人とにた経験だったので親近感がわいた。言葉で伝えるのは、自分を守るためにも大事ななことと思う。

「Aイマस्कはいかがですか？」には四人の主人公が出てきて、それぞれがう悩みを抱えている。ピエロにもったAイマスクをきっかけにみんなの悩みは解決に向かっていくけれど、本当に必要だったのはAイマスクのような特別な力ではなかった。彼らはほかのひとの関わりによって、それまで知らなかった相手の気持ちに気づいたり、はげまされたりして、最後には自分自身が勇氣を出したから乗りこえられた。人と人との関わり合いの大切さと勇氣の力をこの本は教えてくれた。

もし友達が悲しんでいたら、はげましてあげたいと考えるだろう。AIにもはげましの言葉をえらぶことはできるけれど、相手の気持ちによりそい、本当の意味で助け合うことはできない。言葉にこめられた思いやりや温かさは人間同士だからこそ感じられるもので、この先AIがどれだけ進化しても、人との絆の価値はなくならないはず。だから、ぼくも相手の気持ちによりそって、自分で考えた言葉で人と助け合っていきたい。それはぼくにとっては勇氣がいることだけど、少しずつでもいいからできたらいいなと思う。

勇氣は、外から与えてもらうものではなく、自分の内から生まれるものだと思う。ぼくは言葉で伝えるのは苦手だけど、心の中にはたくさんの思いがあるから、自分の心の声をもっと大切にして言葉で伝える勇氣を育てていこう。そうしたらきっと、ぼくの未来もすてきなものにできるから。